

特集 ICT・福祉機器の活用と介護業務改善

介護人材不足への対策としてICTやIoT活用が注目されている。介護業務の生産性向上により、介護職の専門性が発揮できる環境を目指す。たとえば、特に多忙な夜勤帯に、未然に駆けつけるべき緊急事態なのか手元のスマートフォンで確認できるなど即効性も高い。先駆的導入施設では着実に成果を上げ始めた。現場取材した。

アズハイム町田（東京都町田市）

17時間／日の労働時間削減を実現



アズハイム町田



ホーム長の梅原さん（左）とシステム担当の小野さん

アズパートナーズ（東京都千代田区、植村健志社長）が運営する介護付き有料老人ホームアズハイム町田（東京都町田市）では、ICT・IoTを使った業務サポートシステム「EGAO link」を導入し、1日当たり17

時間、スタッフ2人分の労働時間の削減を実現した。同システムは、パラマウントベッドの非接触型睡眠計「眠りSCAN（スキャン）」、アイホンのナースコールシステム

「Vi-nurse」、富士データシステムの介護カルテシステム「ちようじゅ」、住友電設の「ナースコールゲートウェイ」のそれぞれの機能を連携させ、それをスマートフォンで確認・入力・管理ができるようにしたもの。アズパートナーズが4社と協力関係を結び、1年3月にかけて開発した。

具体的には、ベッドの下に敷かれた「眠りSCAN」で常時、入居者の睡眠・覚醒・離床呼吸の状態などを把握し、入居者の状態に変化や異常があった時に、ナースコールシステムの「Vi-nurse」に自動通知する。同時に「ナースコールゲートウェイ」の技術でスマートフォン用の信託に切り替えて、各スタッフが所持するスマートフォンにも知らせるため、転倒や徘徊が懸念される入居者に、迅速に対応することができ、併せて介護カルテシステム「ちようじゅ」に、コール

内容が自動的に記録されるためスタッフの業務や肉体的・精神的な負担が大幅に改善される仕組みになっている。同ホームでは、「EGAO link」を導入するにあたり、60床全てに「眠りSCAN」を導入。勤務時間中はスタッフが全員にスマートフォンを所持してもらい、ICT・IoTを使った業務サポート体制を整えた。

スタッフの年齢は10代から60代まで様々。一部のスタッフがだけでなく、全のスタッフが抵抗なく使えることが大切と記録システム担当の小野大介さん。導入にあたり、慣れないスタッフに対して丁寧なフォローを心掛けた。最初はみんな半信半疑でしたが、使っていく中で機器が優れている部分は素直



入居者の情報を手の平で確認。最初はみんな半信半疑でしたが、使っていく中で機器が優れている部分は素直



パラマウントベッドの「眠りSCAN」を全60床に導入。導入効果はあがっている。同ホームの試算では、「EGAO link」を導入したことによって、1日当たり17時間、ケアスタッフ2人分の労働時間削減につながったとしている。

「呼吸数から体調の変化の兆しなども掴みとることができるようになった」（梅原ホーム長）。2月末から「EGAO link」の効果測定を開始し、3月15日時点までに「ナースコール」が1日平均90回から25

回に減少▽安否確認で1日5時間の時間削減▽夜間転倒事故なし▽記録業務において、1日7時間の時間削減。などの導入効果をあげている。同ホームの試算では、「EGAO link」を導入したことによって、1日当たり17時間、ケアスタッフ2人分の労働時間削減につながったとしている。

梅原ホーム長は「システムの導入でスタッフに時間的なゆとりが生まれ、笑顔も生まれている。削減効果で得られた時間を、入居者様とのコミュニケーションや個別対応にあてたい」と話している。アズパートナーズでは「アズハイム町田」での成果を踏まえ、今年6月オープン予定の「アズハイム練馬ガーデン」では、開設時から導入していくなど、同社が運営する他の有料老人ホームにも「EGAO link」を導入していく考え。

特養くつろぎ・つるみ荘（大阪市）

QOL向上と省力化へ最新機器活用



福田光正 副理事長



松永製作所の車いす「マイチルト」（手前）を開設。今回が2施設目となる。くつろぎ・つるみ荘は3フロアの建物で、全9ユニットで全室個室の入所定員81人、うち特養73床とショートステイ8床を備える。施設内各フロアの居室や共有スペースには、

「SOAN」を採用。「エルフのサービス付き高齢者向け住宅」ですべてに全室で採用して、ご利用者の眠りの質の改善につながるケアを提供できるため、ご家族にも喜ばれていると福田光正副理事長。「またスタッフが少ない夜間帯などで、従業員の負担軽減にもつながる」と考え、ここでも開設と同時に導入したと話す。

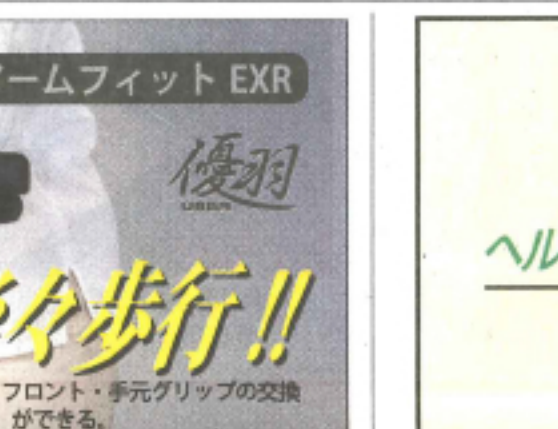
同品は、利用者一人ひとりの睡眠・覚醒のリズムを把握できるほか、呼吸数のリアルタイム表示機能や起き上がり徘徊のリスクのある利用者にも、迅速に対応できる。また、各居室にはパナソニックの見守りカメラシステムも装備。ナースコールが鳴った際に、スタッフがスマートフォンで確認できる。また、各居室にはパナソニックの見守りカメラシステムも装備。ナースコールが鳴った際に、スタッフがスマートフォンで確認できる。また、各居室にはパナソニックの見守りカメラシステムも装備。ナースコールが鳴った際に、スタッフがスマートフォンで確認できる。



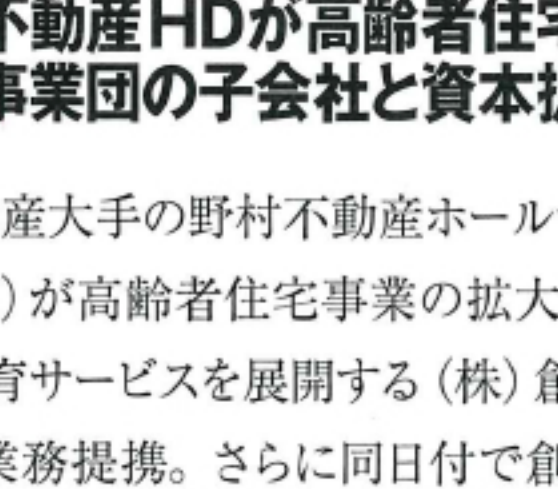
いうら製のリフト付シャワーチェア



パラマウントベッドの「眠りSCAN」を導入。専用のレールを浴槽に設置するだけで簡単に使用できるもので、キャリに座ったままシートを浴槽上へスライドさせて浴槽へ浸かることができる。シートの高さは介助しやすい高さで電動昇降でき、無理な介助姿勢による腰痛など



器「FREEDAM」を設置。カラオケだけでなく、機能訓練に活用できる。体操など様々なコンテツを提供する。質が高く楽しいコンテンツでご利用者の生活の活性化が期待でき、レクリエーションに携わる職員の負担軽減にもつながる」と福田副理事長。



施設全体に利用者の生活の質の向上へ向け、日々その暮らしを支える職員のサービスの質を高めながら、省力化も図る取り組みが、様々な最新

野村不動産HDが高齢者住宅事業を拡大 創生事業団の子会社と資本提携

不動産大手の野村不動産ホールディングス（株）（東京都新宿区）が高齢者住宅事業の拡大を図る。3月1日付で介護・保育サービスを展開する（株）創生事業団（福岡市中央区）と業務提携。さらに同日付で創生事業団の100%出資

の第三者割当増資を引き受け、議決権の49%を取得した。JAPANライフデザインは「グッドタイムホーム調布」(72室)、「同不動前」(61室)、「同多摩川」(41室)の都内3カ所で高級介護付き有料老人ホームを運営。野村不動産の高級分譲マンション「プラウド」の購入者やその親世代の入居先としての活用などを見込む。今後は同社のノウハウを活用して住宅の開発にも着手したい考えだ。

日経ヘルスケア 2017年4月号

アズパートナーズが介護ICTシステムを本格構築 市販の4製品を連動させ業務の効率性高める

介護付き有料老人ホームを15施設運営する（株）アズパートナーズ（東京都千代田区）は、3月から「アズハイム町田」(60室、東京都町田市)で、市販4製品を組み合わせた介護ICTシステムを稼働させた。導入費用は約2000万円で、今後2～3年かけてほかの施設にも導入する予定。

採用したのは、睡眠センサーの「眠りSCAN」(パラマウントベッド)、ナースコールシステムの「Vi-nurse」(アイホン)、介護カルテシステムの「ちようじゅ」(富士データシステム)、IP電話システムの「ナースコールシステム」(住友電設)。業務の一部を支援する各機器を連動させ、職員が1台のスマートフォンで入居者の状況把握や記録、コール対応などを操作可能にしたことで、業務のさらなる効率化を図った。

2017年2～3月の主な行政処分 無届けホームでのサービス提供を隠蔽

2017年3月1日付で、横浜市保土ヶ谷区の小規模多機能型居宅介護事業所「オーシャン天王町」が指定の一部効力停止処分（3カ月の利用者受け入れ停止）を受けた。利用者を併設の無届け有料老人ホームに入居させ、サービスを提供していたが、ケアプランにその事実を記載しなかった。

表1●主な指定取消などの行政処分（2017年2～3月）

事業所名など	概要
オーシャン天王町（横浜市保土ヶ谷区、小規模多機能）	利用者を併設の無届けホームに入居させてサービスを提供したことを隠蔽したため指定の一部効力停止。同一建物減算を逃れた分の不正請求返還額は177万円
デイサービスベルジ南波川（群馬県渋川市、通所介護）	2016年7月に浴室で職員が利用者の胸元をつかみ激しく揺さぶるなどの虐待を行った件で、防止措置が不十分だとして3カ月間、新規利用者受け入れ停止と介護報酬3割減
ヘルパーステーションもこ（大阪府高石市、訪問介護）	訪問介護員の同居家族へサービスを提供したり、無資格職員にサービスを提供させるなどとして介護報酬約100万円を不正請求したため、3月31日付で指定取消